

半世紀前まで日本においては、女性の職業に就くと言ふはまれなる事なりき。米國の首都ワシントン在住中、十六歳になりし吾に父「將來、教育は男女平等となり、結婚は女性にとりて最終就職にはあらず、男性と同じく職業に就く時代到來せん。よりて、心して勉學に勵み、立派なる社會人になるやう氣構へ整へつつ日常を送るべし」と言ひき。お轉婆の吾、靜かに本を讀むは好みにあらず、更には職業を持つといふ事良く理解する能はざりき。ただ、その頃、外務省の若き青年たちそれぞれの留學先大學にて知り合ひし日本女性伴ひて、我が家に時々食事に訪れたり。非常に聰明なる先輩女性たちを見るほどに、いづれ大學にての勉學了はりて就職したれば、自信に溢れ、自分の意見はつきり表明し、立居振舞ひ凜としたて、なかなか良き姿なりと思ひき。吾も米國のエスタブリッシュメント多く輩出するアイビーリーグの大學を目指し、勉學に勵む。遺憾にして娘二人を留學せさすほど我が家は富裕にはあざりき。

十八歳にて米國の高校卒業し歸國せる吾に、父「これからの時代、英語普通に驅使する人たち増ゆべし。女性として仕事する上にて、男女差別最小限にとどめらるるは、免許を要する、辯護士、醫師、公認會計士等最適なり。然れども海外にて殆どの教育を受けし汝、日本の試験に合格するは至難の業なり。さりとて海外にて就職せんも難かるべし。よりて、人より拔きんづる英語能力にて勝負する外なし。但し、英語のみにては足らず、その當時日本においては國際會議少なく、英文速記者殆どをらず（僅か四名）、また通譯者になるにも役立つゆゑ、とりあへず、技術ある人未だ少數なる英文速記やタイプなど大學通學中に免狀取すべし」と助言せり。

上智大學に通ひながら、英文速記上級やタイプ（一分につき百五十文字）等最優秀の成績にて修了證書を得たり。おかげにて、その當時の大卒の初任給は四萬五千圓に比し、その倍以上の十萬圓の給料にて國際機關の出先事務所に就職する事になりき。仕事を變はるたび、より高い能力發揮する仕事に就くを得たり。その過程において、自分の役割は海外との懸け橋になることならむと考へ始めたり。その頃、朝日新聞の東京本社への就職決まり、一年に満たざる總務職勤務の後、現在の國際本部の前身、編集局國際配信部なる部署にて英語の記事執筆する記者となり、正に日本の政治・經濟・文化などを海外向けに発信する仕事に就きたり。その部署において書き、また英譯せる記事はニューヨークタイムズ配信網によりて世界中に配られたり。

一九八〇年代後半日本の金融制度改革始まり、諸外國より日本の慣習、就中行政指導なるもの分かり難く非關稅障壁なりとの批判多ければ、女性の友人たちと語り日本の制度説明する英文金融ニュースレターなるものを發行する會社立ち上げたり。その二年後日本經濟新聞參入し來り、將來危ふしと思ひて、廢刊するに至れり。それ以降は經濟關係の大きな國際會議など運營するビジネスに切り替ふ。その過程に於て、女性の翻譯者や通譯者の數、

既に男性を壓倒的に上回りたるを認識す。今日女性も大臣に任命せられ、大手企業役員にも登用せらるる時代となりにき。吾ら働き始めたる時にはそれら全て遠き道のりに思ひたり。將來は更に變貌を遂ぐべしとの期待も強し。吾が人生全てにおいて、父の幅廣き視野とビジョンおよび助言なしには、今日の吾あらずらん。